



過保護が『不登校・ひきこもり・家庭内暴力・思春期を乗り越えられない』など、人間としての自立に影響を与えています。

過保護は2歳まで、3歳になったら自立に向けスタートします。

〈ヨコミネ式の理念〉

「すべての子どもが天才である。ダメな子なんて一人もない。」

「すべての子どもが天命をうけてこの世に生まれて来た。その天命を最大限に発揮させたい。」

ヨコミネ式教育法は、現在及び後世に、天が与えた教育理念である。この世に必然的に天から贈られた宝物である。子どもたちに平等に与えられなければならない。

〈目的・手法〉

ヨコミネ式教育法の究極の目的は「自立」です。自立とは、「自ら考え、自ら判断し、自ら行動・実践すること」です。

そのために、「4つのスイッチ」や「才能開花の法則」により、子どものやる気を起こし、子どもの持つ素晴らしい才能を開花させます。また、「読み・書き・計算・体操・音楽」を通して、「学ぶ力」・「体の力」・「心の力」をつけさせ生まれ持っている「可能性」を最大限に引き出します。

幼児期から「読み・書き・計算」をベースに小学5年生頃までに「自学自習の力」を身につけます。その後は、自らの力「独学」にて学んでいくのです。

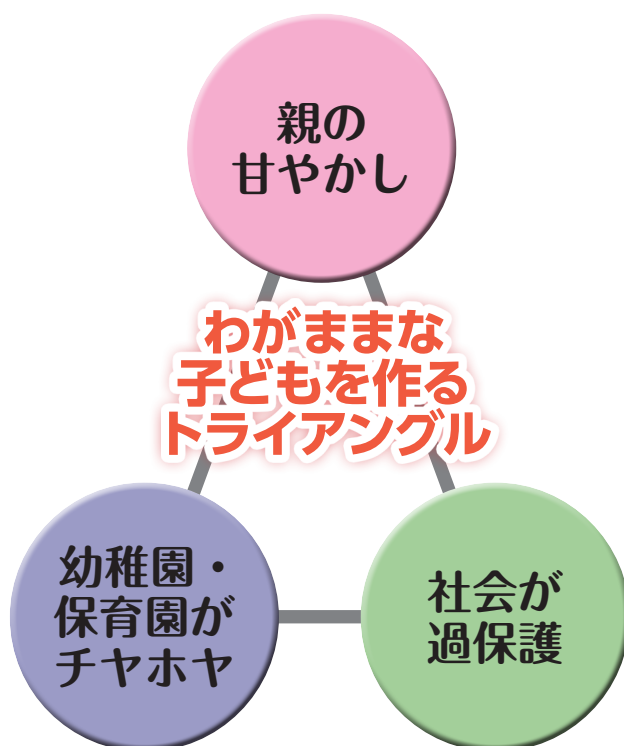
〈子育ての現状〉

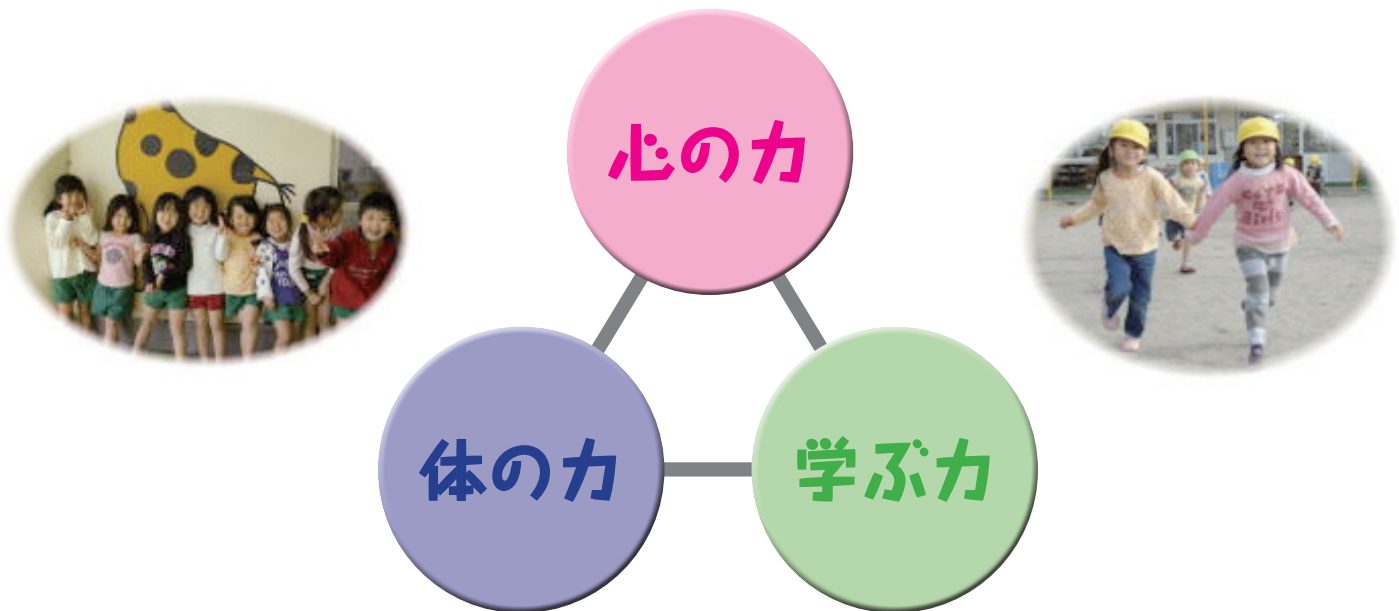
少子化になり、親からの愛情を一心に受けて育った子どもたち、と言う良いイメージが強いこの社会、ほんとうにそうでしょうか？

最近、子どもに気を使っている親がいます。何とおかしいことでしょうか。子どもがほしがらないのに何でも与え、子どもの欲求を満たしています。

また、そのような親は、子どもが絶対なので、学校にも何かあれば反発します。もちろん子どもを守るのは親の役目です。しかし、必要以上に過干渉になり、保育園・幼稚園・学校に怒鳴り込んできます。システム化している教育現場では、腫れ物に触るように子どもに気を使って接していかなければなりません。

そして、同様に社会が過保護になっています。過保護でしかも無関心な社会になっています。親が甘やかし、保育園や幼稚園がチャホヤし、社会が過保護、よってたかってわがままな子どもをつくっています。わがままな子どもたちにどんな未来があるのでしょうか。





心の力

とは、正義感や道徳観などといった心に関するものです。

犯罪を犯した少年院の子どもたちはほとんど幼年期に問題があります。特に、母親からの溺愛、落ちこぼれ、そして、ＡＶやホラー映画などの過激映像等。そのような環境の中で幼児期を過ごした子どもたちのほとんどが、自己中心的で、短気、特に男子に至っては暴力、とどうしようもない性欲が思春期におそってくるようです。そのような子どもたちにさせないためにも、幼児期からしっかりと「心の力」を育てていかなければなりません。

相部和男氏著作の「非行の火種は３歳に始まる」と言う本中で、相部氏は、「幼児期の溺愛は非行の温床」と記しています。幼児期の環境や教育がいかに大切であるかが理解できます。この考えは、ヨコミネ式教育法の基本になっています。

「非行少年の幼児期の実態」

～「非行の火種は３歳に始まる」より

１．調査でわかった意外な事実

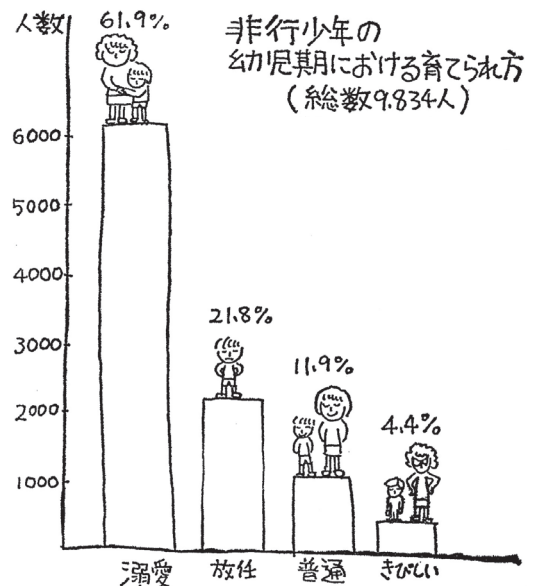
約 30 年にわたって非行少年の幼児期の調査研究を続けてみた結果、意外な事実が分かりました。

１万人近い非行少年と面接したとき、「小さい時に、ぼくはずいぶん甘やかされました。」とか、「ぼくは、小さいときからほったらかされ、親の愛情など知らずにおおきくなりました。」など、幼児期に記憶している事を自由に連想してもらった。

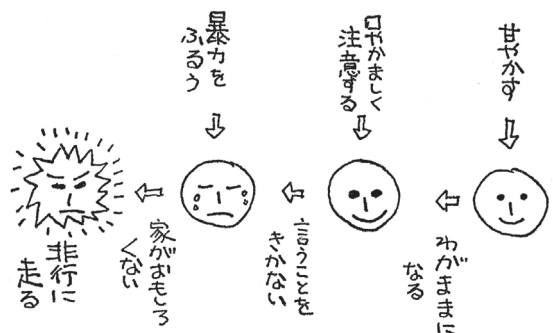
それから保護者と面接をし、幼児期にどのように育てたか、調査を積み重ねていった。その結果、愛情に飢えているのではなく、甘やかされて非行少年になった（溺愛）というケースが 62% もありました。放任を合わせると 84% になります。

２．溺愛から非行への直線コース

まず、幼児期に溺愛された子どもは「わがまま」になります。どんな統計だって例外があります。しかし、幼児期に溺愛された子どもは一人の例外もなく、絶対「わがまま」になります。



(9834人の中には、まだ法的な処分を受けていない)
一般社会で相談を受けたケースも含まれる



子どもが「わがまま」になって、だんだん手に負えなくなると、親は次第にがみがみと「口やかましく」なります。口でいくら言っても言うことを聞かなくなると、「暴力」をふるってでも我が子を直そうとします。

子どもは耐えきれなくなると、外に「はけ口」を求めます。そして、寂しいので、こころのよりどころを悪い友だちに求めていく。いわゆる「不良交友」の始まりです。そして、非行へと走り出すのです。

ある家庭で非行少年が出ると、世間では、「あれは親が暴力をふるったからだ」と言う。また、ある人は「いや、友達が悪いから非行に走り出したんだ」と言う。いずれも皮相な見方である。

これを逆にたどってみると、確かに、その子が非行に走り出したのは悪い不良仲間と交際するようになったからである。ではなぜ、「不良交友」が始まったかと言うと、「家が面白くない」からである。ではなぜ「家が面白くない」かと言うと、「親が暴力を振るうようになったから」である。ではなぜ親が「暴力」を振るってでも我が子を直そうとしたかと言うと、口で注意しても言うことをきかなくなったので、つい手が出てしまったのである。ではなぜ、口やかましく言うようになったかと言うと、「わがまま」になってきたからである。なぜ、「わがまま」になってきたかと言うと、幼児期に「溺愛」したからである。すなわち、幼児期の「溺愛」が根源なのだ。

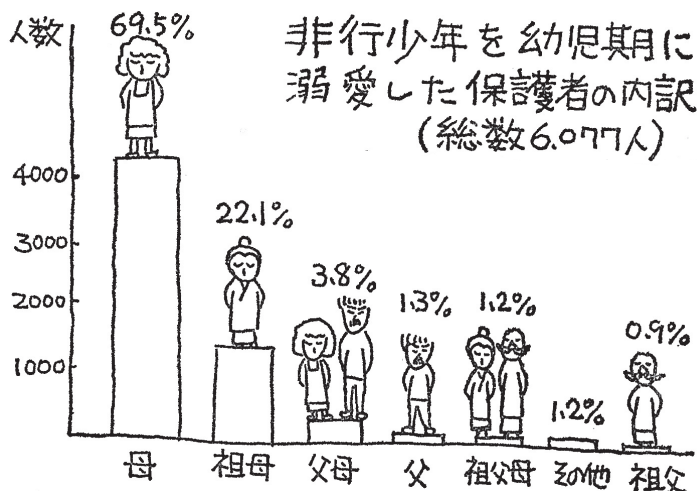
幼児期に甘やかされた子どもは、自分の欲求をコントロールする力が弱い。自らの欲求のままに衝動的に動き出す。物が欲しいと思えば、人の物を盗んでまで欲求を満たそうとする。異性に対する欲求が募れば、次々と衝動的に強姦してまわる。

登校拒否の子どもの相談をすると、一人の例外もなく幼児期に「溺愛」されていた。

つまり、学校で担任とうまくいかない、友達との人間関係が崩れてしまってもうまくいかない、勉強についていけない、ということだけで登校拒否になっていく。幼児期に甘やかされた子どもは**がまんする力、耐性力がない**からである。

それでは幼児期に溺愛した62%の中で、どの保護者が一番甘やかしたかと言うと、1位が母親で70%、2位が祖母で22%だった。これはどういう意味をもった数字かと言うと、幼児期の教育は母親任せの家庭が多く、父親の責任が追及される数字である。次に2位の祖母であるが、夫婦共働きの家庭が多くなり、祖母に預けるケースが多くなったからである。しかし、母親にせよ祖母にせよ、この子を甘やかして将来非行少年になってほしいと思って甘やかす保護者は一人もいないはずである。何となく甘やかしたことが、独り立ちできない非行少年を作ってしまったのである。

心を育てる親の役目・責任は、上述したようにけっして甘やかさないこと。そして、先のことをしっかり見て子育てすることです。



3. 這えば立て 立てば歩めの親心



昔から、這えば立て 立てば歩めの親心と言われてきました。

内容は、親というのは次のステップに望むのが親心だから、その親心をしっかり自覚してこれから先に起きることや、小学校でのことや中学校でのことを考えた上で、育児をしなければただの子守りになってしまいます。赤ちゃんや子どもは未来が読めません。未来を読める親が子育てするわけですから、赤ちゃんや子どもを守るためにも、今見えていることだけを見るのではなく、先のこともしっかり見て子育てするのが親の役目という意味です。さらに「親」という字を考えてみてください。木の上に立って見ると書きますね、木の上に立つことによって遠くが見えるものです、赤ちゃんや子どもは先を見ることができないので先の見える親が、しっかり未来を考えてあげなくてははいけません。

学ぶ力



とは、「読み・書き・計算」を通して、自ら学んでいく力です。また、自然体験や友人関係から、生きる知恵も学ぶ力です。言い換えると理解力、思考力、洞察力を兼ね備えた力のことであり、「1を聞いて10を知る力」、「次にどうなるか即座に考える」、「うわさに流されない、正しいことを正しいと見抜く力」です。

すべての事において学ぶ力は必要です。人間はこの学ぶ力によって育ちます。昔はその環境があったので、今ほど「読み・書き・計算」をしなくても、学ぶ力が十分に育っていたのです。昔は誰も大人が監視をしなかった。監視が付かなかったからやりたい放題の中で、自分で学んでいったのです。危険から、友達から、弱い子から・・・みんな学んでいたのです。夏場、焼けるように熱いアスファルトの上をやけどしないように歩くにはどうしたら良いか。スズメバチに刺されないで大きなカブトムシを捕るにはどうしたら良いか、頭をフル回転させて、先人に学び、先輩に学び、友達に学びながら目的を果たしたのです。学識だけではこのようなことは教えてくれません。しかし、今は皆が勘違いしています。これらを教えて育てようとしています。教えて育つ物ではありません。

大切なことは、**テスト勉強ができるために「読み・書き・計算」をするわけはありません。「学ぶ力」をこの時期に引き出すためです。**問題にぶち当たり、問題を解決するとシナプスができます。自ら問題にぶち当たり解決したことは良く覚えていて忘れません。人に教えられたことはすぐに忘れてしまいます。この違いなんです。



体の力

とは、体力や柔軟と言った力のことです。

ヨコミネ式では、走力、泳力、柔軟性、体操にも力をいれています。どうしてそこまで力を入れるのか、**運動神経の基礎は6歳頃までに固まると言われています。**幼児期にバランス感覚といった体に関するものを司る小脳ができあがってしまうからです。簡単に言えば、小脳を刺激し、良い運動神経を高めることです。小脳が完成してしまう10歳を過ぎてしまえば、かなりの努力をしないと運動神経は高まらないのです。

小脳は脳にほとんど覆われていて、重さは脳全体の10%程度ですが、ここには脳全体の半分以上の神経細胞が集中しています。大まかな運動命令が脳から出されて、小脳の回路でそれを細かく調節してから、全身へと命令が送られます。このため、微妙な運動もスムーズに行われます。また、体のバランスをとっているのも小脳です。脳や脊髄などと複雑な関係を保ちながら、体のいろいろな筋肉の動きを調節して、身体の運動をスムーズかつ正確に行ったり、一定の姿勢を保持したりしています。

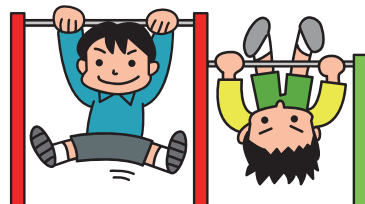
しかし、**その小脳は幼児期にほぼ100%完成しています。これはどういうことかといえ、幼児期の運動神経が将来大きく影響を与えるということです。**だから、運動神経を司る小脳を鍛え「体の力」を養うためヨコミネ式体操を行っています。

現在の社会の中では、子どもたちが「体の力」を培うだけの環境がまったくといていいほど存在しません。なぜなら、子どもたちを取り巻く環境が「かごの中の鳥状態」であり、甘やかし、過保護の状態です。この中で、「体の力」が育つわけがないのです。ヨコミネ式体操は現状の課題に対応した究極の方法なのです。



横峯 吉文 1951年3月1日生まれA型(たまにB型)

鹿児島県志布志市に社会福祉法人純真福祉会「通山保育園」を設立。現在は3つの保育園と「太陽の子山学校演習場」、「太陽の子児童館」の理事長。卒園までに園児全員が逆立ちで歩いたり、5歳児で漢字が読み書きできたりと、そのユニークな「ヨコミネ式」子育ては全国的に話題となり、カリキュラムとして採用する保育園、幼稚園が急増している。女子プロゴルファー横峯さくらの父・良郎氏は実弟



az・c 横峯吉文事務所

〒899-7402 鹿児島県志布志市有明町野井倉8474-5

TEL (099) 471-4600 / FAX (099) 471-4646

E-mail: azc@yokomine.jp

ヨコミネ式

検索